

2. JAPANESE PROGRESS REPORT TO THE EANDC について

更田豊治郎 (原子力研究所)

ほぼ年に一度の割合でシグマ委員会がとりまとめてヨーロッパ・アメリカ核データ委員会 (EANDC) に提出しているプロGRESS・レポートには既に執筆頂いた方も多く、御承知の方も多いこととは思いますが、今年も近くこのレポートを作成することになりましたので、此の機会により多くの方々に知って頂くため以下に紹介致します。

1965 年以来わが国が参加している EANDC では、その参加国に少なくとも年に一度の割合で研究のプロGRESS・レポートを出すことを義務づけております。わが国ではこれまで 1965 年 7 月、1966 年 3 月、1967 年 1 月および 1968 年 1 月付でこれを作成し、今回は 5 回目で 1968 年 1 1 月付のものとなります。少なくとも年に一度の割合と漠然とした表現になっているのは、例えば米国では年に 2 回米国 AEC Nuclear Cross Sections Advisory Committee への報告の形でまとめたものを EANDC にも提出する形をとっており、国によって事情ややり方が異なっているためです。各国から提出されたプロGRESS・レポートは 2 年に 3 回の割合で開かれる EANDC における討議の重要な資料となります。わが国では、これまで EANDC の開かれる直前にプロGRESS・レポートを作成して来ました。上記のレポート作成の月が毎年ずれているのはこの為です。レポート発行日を毎年決った日付に定めた方が都合が良いとも思われますが、このことは懸案になっています。

このレポートの内容の対象は原子力開発の基礎として必要な核データであります。これをより具体的に云えば、約 20 MeV 以下での中性子入射反応あるいはその逆反応の断面積、核分裂に関する諸データ、およびこれらに関連ある核データと云えると思われれます。従って、このレポートの内容範囲は、これらのデータについての測定、評価、およびこれらに関連ある原子核物理の実験ならびに理論的研究の進行状況などを含んでいます。

シグマ委員会では新しいプロGRESS・レポートの作成にあたっては、その都度関係各位に御協力依頼の連絡を致しておりますが、万一連絡もれがあるような場合その他お気付の点は当方にお知らせください。この様なレポートは執筆者自身のメモとしても有用であろうと思われれます。上記のような範囲の研究について漏れなく執筆されることを期待致します。